



祝 辞

新潟県立新潟県央工業高等学校同窓会

会 長 松 縄 嘉 彦

昭和 54 年卒

卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。

皆さんは卒業と同時に新潟県央工業高校同窓会の一員となります。私は同窓会を代表して、皆さんを心から歓迎するとともに、お祝いの言葉を贈ります。

皆さんは、感染禍のなかで入学され、不安の多い高校生活のスタートであったかと思いますが、昨年5月に新型コロナ感染症は規制緩和され、それ以降の1年間は感染禍明けの高校生活を楽しむことができたのではないかと思います。

私たち同窓会も、10月に創立110周年記念式典を実施することができました。こうした記念式典は、生徒の皆さんを来賓の方々に披露するもので、実は皆さんが主役でありました。来賓の方々からは、皆さんの式典に臨む態度、堂々と歌った校歌などが高く評価され、主催者として嬉しいものでした。

記念式典当日には祝賀会を兼ねた同窓会記念総会を開催いたしました。前年度の卒業生から三条実業高校の卒業生まで64歳の歳のある会員200名以上が集い、和気あいあいと語り合うことができました。こうして歳の差や立場の違いを越えて集まれるのは、母校と生徒の皆さんが立派に頑張ってくれているからなのです。

昨日、同窓会から皆勤賞の表彰を行いました。卒業生全体の16.1%にあたる19名の皆さんが3年間皆勤でありました。今年度1年間だけで見ると34名28.8%の皆さんが皆勤であったといえます。都合があって皆勤にならなかった人も含めて、困難な中であっても、生徒の皆さんがいかにしっかりと目的意識をもって登校されていたかがわかります。これはとても素晴らしいことで、卒業生の皆さんに敬意を表するものです。

さて、私たちの身のまわりでは急速にデジタル化がすすんでいます。店員と会話することなく、接触することもなく買い物が済んでしまいます。家から一歩も出ることなくインターネットで買い物ができます。銀行に行くことなくATMでお金の出し入れができます。

人と対面しないでも生活ができるようになって便利になった反面、その便利さの中で人との関わりを煩わしく思うようになり、社会から孤立し、仕事を失って引きこもりになる人が増えているといえます。

私の会社では、昔から社長が給料を手渡しすることを続けています。給料日は、今は社長である私が支店・営業所などをまわって社員一人ひとりに手渡しをし、労いと感謝の気持ちを直接社員の皆さんに伝えています。今どき時代遅れなことと思われるかもしれませんが、大切なコミュニケーションの機会と考えて続けています。

どんなに便利になっても人間は一人では生きていけないものです。卒業生の皆さんは、デジタル社会の中で孤立することなく、会社の中で、地域の中で、コミュニケーションを大切に、自分自身の確実な居場所と支えを作ってください。

そして本校で学んだ「ものづくり」の知識と技術、「町づくりや防災」の知識を活かして、社会に貢献されることを期待いたしております。

最後になりましたが、保護者の皆さん、教職員の皆さん、困難な社会環境下でありながらも立派な後輩の育成にご尽力いただきましたことに厚く御礼を申し上げ、同窓会を代表しての祝辞といたします。

令和6年3月1日